

抵抗性品種等緊急対策事業（継続）

【平成20年度概算決定額 48,217（48,217）千円】

事業のポイント

- ・近年マツクイムシ被害が進行している関東以北で有効な、マツノザイセンチュウ抵抗性品種を開発し普及します。
- ・社会問題化しているスギ花粉症対策として、無花粉スギ等を組織培養により増殖し普及します。

- ・マツノザイセンチュウ抵抗性品種の平成17年度末までの開発数は、クロマツ41品種、アカマツ135品種。
- ・上記のうち、関東以北の気象条件に適した品種数は、クロマツ8品種、アカマツ32品種で他の地域に比べて少ない。
- ・特にクロマツについては、林業種苗法に基づく種苗の配布区域I区（日本海側）で配布できる品種が開発されていないため、早急に開発する必要がある。
- ・独立行政法人林木育種センターが、平成17年1月に無花粉スギを開発。
- ・無花粉スギの苗木等の都県への供給は、原種園が未整備であることから、現在のところ年間200本程度が限界であり、原種園を整備せずに飛躍的な供給量の増大が可能となる組織培養の推進が不可欠。

政策目標

関東以北の日本海側の気象条件に適したクロマツの開発・普及
組織培養による無花粉スギ苗木の供給量の飛躍的増大
（平成21年度から4万本超）

<内容>

1. マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発・普及

関東以北におけるマツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発を行うとともに、それらの増殖を行い、都道府県に対しその苗木を供給します。

2. 組織培養を用いた無花粉スギ等の増殖・普及の実用化

組織培養により、従来の増殖法と比較して著しく短い期間で無花粉スギ等の大量増殖及び増殖苗の順化等を行い、都道府県に対し無花粉スギ等の苗木を供給します。

<委託先>

民間団体

<事業実施期間>

平成18年度～22年度（5年間）

[担当課：林野庁研究・保全課]